

感染症週報

小笠原での流行状況

第10週（3月2日から3月8日まで）

父島 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、
インフルエンザの報告がありました。

母島 特別な感染症の報告ありませんでした。

※ 5例以上発生時に実数報告としています

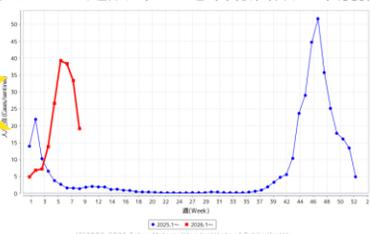
東京都全体での流行状況

第9週（2月23日～3月1日）

【警報・注意報】

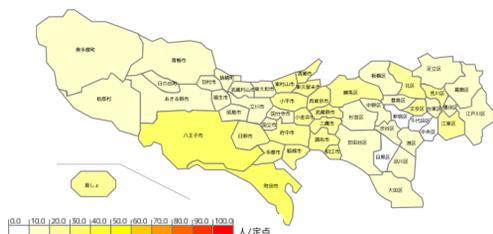
- ・インフルエンザ **警報基準越え**
(定点患者報告数 19.18)

東京都内における定点当たり患者報告数の年別推移



村内でも
流行中

都内の保健所別定点当たり患者報告数(第9週)



【ピックアップ】

- ・感染性胃腸炎 **村内でも出ています**
(定点患者報告数 10.99)

感染症メモ

麻疹は長く日本社会と共にあり、医学の進歩とワクチンによってようやく制御できるようになった感染症の一つです。日本の歴史上、麻疹はしばしば社会を揺らす大流行を起こしてきました。江戸時代には大規模流行が周期的に起こり、特に1862年の流行は「文久の麻疹流行」として知られています。この流行では江戸を中心に多数の患者が出て、街では麻疹よけのまじないや赤いお守りが流行し、患者に特定の食べ物を与えるとよいといった民間信仰も広まりました。当時は麻疹が一生涯に一度かかる病気と考えられていたため、「軽く済めば厄落とし」と前向きに捉える風習もあったと伝えられています。その後、20世紀後半に麻疹ウイルスのワクチンが導入され、流行は大きく減少しました。現在、日本はWHOにより「排除状態」と認定されていますが、近年も海外からの持ち込みによる患者発生がみられます。麻疹は予防できる感染症です。ワクチンの接種歴を確認し、予防に努めましょう。

麻疹について知ろう

麻疹は麻疹ウイルスによる感染症で、感染力が非常に強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症するといわれています。

感染経路は空気感染・飛沫感染・接触感染で、患者と同じ空間にいただけでも感染することがあります。



主な症状は高熱、咳、鼻水、結膜炎などの風邪のような症状の後、顔から始まる赤い発疹が全身に広がります。



肺炎や脳炎などの合併症を起こすことがあり、重症化する場合があります。



予防にはワクチンの接種が最も有効です。



ワクチンの接種歴を確認し、発熱や発疹などの症状がある場合は早めに医療機関へ相談しましょう。

ワクチンを接種しましょう。



小児では風疹・麻疹混合(MR)ワクチンを、1～2歳の間に1回目、小学校就学前の1年間に2回目を接種します。また、1990年4月1日以前に生まれている人は定期接種が1回のため、十分な免疫が獲得できていない可能性があります。麻疹にかかったことのない人は、抗体検査の上、追加接種が推奨されます。

